

8月24日 岐阜県内にて堅果類の結実豊凶調査講習会を実施

【技術普及課】

8月24日（月）、飛騨署管内の屋敷ヶ洞国有林において、堅果類の結実豊凶調査講習会（岐阜県会場）を開催しました。



当局では、森林総合研究所の要請を受け、平成17年度からブナの結実状況の全国調査に協力しています。また、人里周辺へのツキノワグマの出没への関心の高まりから、クマの出没予測に関連する「堅果類（ブナ・ミズナラ等）の豊凶調査結果」が管内各県で毎年秋に公表されていることを受け、平成28年度から各県と連携して堅果類の結実豊凶調査を実施し、その結果を公表しています。

当局の調査は、堅果類（ブナ・ミズナラ・コナラ）の結実豊凶調査要領に基づき行います。各森林管理署等の出先機関である各森林事務所の職員を中心に、管内の国有林にて双眼鏡を用いて調査しています。管内には80以上の森林事務所があり、各職員で判定に差がでないよう、当局要領の監修者である信州大学教育学部准教授の水谷先生に、評価基準の判定についてご指導いただく機会を設け、富山県、岐阜県、愛知県内の職員を中心に職員40名ほどで目合せを行いました。



堅果類は日が当たる木の上部や側面、さらに葉の上側に実が付くため、その部分を良く見ることや複数の方向から、ある程度の距離を取って調査しないと過小評価になる傾向があるなど、水谷先生から判定のポイントを教えてもらい、より短時間で効率的に判定することができるようになりました。

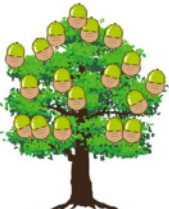


右の丸く切り抜かれた写真は、双眼鏡でブナを見たときのものです。今年度は最も実を付けているという判定のブナも見ることができました。樹木全体に多く実を付けており、肉眼でもはっきり見ることができました。



豊凶判定基準



評価	状況	模式図	評価基準
0	着果なし		着果なし 3か所の観察位置から、それぞれ 30 秒程度観察しても着果枝が確認できない場合
1	一部に疎に着果		【枝先の着果状況】疎 コナラ：枝先の平均着果 3 個以下 ミズナラ：枝先の平均着果 2 個以下 【着果枝】樹冠表面の 6 割未満
2	一部に密に着果		【枝先の着果状況】部分的に密 コナラ：枝先の平均着果 4 個以上 ミズナラ：枝先の平均着果 3 個以上 【着果枝】樹冠表面の 6 割未満
3	全体に疎に着果		【枝先の着果状況】疎 コナラ：枝先の平均着果 3 個以下 ミズナラ：枝先の平均着果 2 個以下 【着果枝】樹冠表面の 6 割以上
4	全体に密に着果		【枝先の着果状況】密 コナラ：枝先の平均着果 4 個以上 ミズナラ：枝先の平均着果 3 個以上 【着果枝】樹冠表面の 6 割以上
5	非常に密に着果		【枝先の着果状況】全体に非常に密（極） 【着果枝】ほぼ全ての枝